

【令和6年度におけるサービス構築事業の概要】

資料3

構築サービスの 考え方

サービス領域

具体的事業

財源

1. 課題解決型

① 各種職域・団体への対応
(負担軽減)
= 地域課題解決 =

- ・ 災害時見守りアプリの検討
- ・ 消防アプリの導入検討
- ・ 学校と保護者をつなぐ学校サービス

・ 推進交付金

② 母子にやさしいDX
= 政策的事業実施 =

- ・ 小児オンラインかかりつけ医
- ・ 母子モの機能拡張

・ 実証調査/推進交付金
・ 推進交付金

2. 専門分野 先行型

③ 地域まるごと病院機能
= デジ田特区構想推進 =

- ・ 退院後の医療支援強化
- ・ 電話/チャット服薬指導
- ・ 貨客混載
- ・ 訪問看護師のポケットエコー
- ・ 北山診療所オンライン診療

・ 実証調査業務
・ 実証調査業務
・ 実証調査業務
・ 実証調査業務
・ 推進交付金

実証調査業務＝内閣府実施事業(市の負担なし)
推進交付金＝内閣府交付金事業(市の負担1/2)

母子モと都市OS（共通ID）を通じた情報の活用について

これまでは、各サービスやアプリ単位で利用者個人を特定していたが（YAHOO = 10000、アマゾン = ABCDE）、様々なアプリで共通して使える地域ID（都市OS） = 「名寄せ機能」を導入したことで、別サービスやアプリと情報の突合や新たな価値を提供できるようになった。（〇〇さん = YAHOO10000 = 共通ID茅野11番 = アマゾンABCDE）

- 介護通所サービス×のらざあ で、1か月の通所予定に併せてのらざあを自動予約。
- 乳幼児健診×校務支援 で、学校保健教諭が過去の検診・予防注射情報を閲覧。
- 乳幼児予防注射×休日夜間オンライン医療 で、初対面の医師もこれまでの接種記録を閲覧する。

